

## 第9次鳥取市総合計画の総括について（案）

第9次鳥取市総合計画（以下「9次総」という。）は、合併時策定した「新市まちづくり計画」や「第8次鳥取市総合計画」を踏まえ、「人を大切にするまち」をまちづくりの理念とし、めざす将来像「人が輝き まちがきらめく 快適・環境都市 鳥取」の実現に向け、各種施策を示したものです。

本総合計画では、人づくり、安全・安心、若者定住など6項目を『「人を大切にするまち」リーディングプロジェクト』として位置づけ、重点的に取組みました。

各種施策の実施にあたっては、進捗状況の把握、行政評価による評価・検証を行い、成果を重視した進行管理を行いました。

基本計画・実施計画の達成状況は別紙（資料3-1、資料3-2）のとおりです。

○基本計画（H23年度～H27年度）に掲げた主な取り組み

## I 計画推進における基本方針

## 1 自立と協働の強化

- ・平成30年4月の中核市移行を目指し、中核市移行推進本部を設置（H26.6）
- ・地域づくり懇談会を開催し、市長以下、市幹部職員が地域に出向き、市民と直接対話を実施

## 2 行政経営基盤の強化

- ・第5次行財政改革大綱（H22～26）、第6次行財政改革大綱（H27～31）
- ・情報提供のあり方に関する提言（H25.1）・・・広報専門職員（戦略広報監、キャスター）を配置し、積極的に情報発信を行った。
- ・定員適正化の推進
- ・市民が求める住民サービスの提供
- ・新庁舎整備の推進

## 3 都市間連携の強化

- ・「鳥取・因幡定住自立圏」の中心市として、圏域全体の発展を牽引
- ・他圏域とのネットワーク強化（山陰海岸ジオパーク推進協議会、コリドー21（因但県境自治体会議）、鳥取・岡山県境連携推進協議会、）
- ・都市連携による魅力創出（姫路・岡山・鳥取城下町物語推進協議会（愛称：HOTトライアングル）、スローライフサミット（スローライフまちづくり全国都市会議）など）
- ・姉妹都市との交流推進（釧路市、姫路市、岩国市、郡山市）

## Ⅱ 「人を大切にするまち」リーディングプロジェクト

- 1 ふるさとを大切にす心豊かな人づくりプロジェクト（教育、文化、地域、協働）
  - ◆「ふるさとを思い 志をもつ子」を育む教育の推進
    - ・小学生が中山間地域で自然・文化活動などを体験する活動を実施
    - ・小中一貫教育の推進
    - ・中学生が地域の事業所や施設等で職場体験活動を実施
    - ・「芸術の出前講座」や「青少年劇場巡回公演」など、子どもの文化芸術活動の推進
  - ◆地域で活躍する人材の育成・支援
    - ・「まちづくり協議会」が取り組む「地域コミュニティ計画」に基づいた活動の支援
    - ・「とっとりふるさと元気塾」を開設し、中山間地域のリーダーを養成
    - ・地区公民館の「子どもと大人のふれあい事業」や「特色ある公民館活動事業」などへの支援
- 2 健康で安全・安心な暮らしづくりプロジェクト（健康、福祉、災害、交通）
  - ◆健康づくり・医療・福祉施策の充実
    - ・妊婦健康診査費助成（14回）、小児特別医療費助成（H28.4から18歳まで）の拡充
    - ・特定健診、がん検診などの未受診者対策の実施
    - ・専門医による発達相談の実施、就学前の5歳児発達相談の実施
    - ・市民健康手帳の配布（H25～）
  - ◆災害に強いまちづくりの推進
    - ・災害時要援護者普及促進
    - ・地域の防災指導員（防災リーダー）の養成による地域防災力の向上
    - ・住宅、建築物耐震診断・改修支援の実施
  - ◆公共交通の確保
    - ・「南部地域新総合公共交通実証効果調査」実施（H24.10）
- 3 若者の夢がかなうまちプロジェクト（雇用、若者定住、結婚、環境大学、移住、中心市街地）
  - ◆雇用創造の戦略的な展開
    - ・企業誘致の推進
    - ・環境・エネルギー関連産業の育成・支援
    - ・雇用マッチング促進（高校生・大学生の企業見学会、パソコン技能研修会等）
  - ◆若者定住の戦略的な促進
    - ・鳥取環境大学が公立大学としてスタート（H24.4）

- ・「すごい！鳥取市婚活サポートセンター」がサービスを開始し、出会いの場を創出（H26.11）
  - ・若者会議による政策課題（移住定住対策）の調査研究
  - ・鳥取市医療看護専門学校開校（H27.4）
  - ・UJI ターン促進（移住定住者への住宅整備支援）
  - ◆中心市街地のにぎわい形成
    - ・鳥取駅前太平線に開閉式大屋根・芝生広場「バード・ハット」完成（H25.7）
- 4 自然環境や伝統文化を守る快適な「とっとりライフ」プロジェクト（砂丘、湖山池、芝生、環境、伝統文化）
- ◆鳥取砂丘の再生と湖山池の浄化
    - ・砂丘一斉清掃や除草ボランティア活動の実施
    - ・鳥取砂丘新発見伝事業（鳥取砂丘イリュージョン、サンドボード選手権等）
    - ・「湖山池将来ビジョン」策定（H24.1）、湖山川全水門開放（H24.3）
  - ◆緑あふれるまちづくりの推進
    - ・協働による公園の芝生化
    - ・「女性の森グループ」活動支援や森林・林業学習活動
  - ◆伝統文化の保存等の推進
    - ・鳥取市文化賞など文化芸術活動支援
- 5 「打って出る」大作戦プロジェクト（ジオパーク、砂像、観光、販路拡大、情報発信）
- ◆魅力ある観光地づくりの推進
    - ・「鳥取砂丘 砂の美術館」がオープン（H24.4）
    - ・山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワークに再認定・エリア拡大（H26.9）
    - ・しゃんしゃん祭支援
    - ・観光イベントの開催
    - ・鳥取市知名度アップ大作戦「すごい！鳥取市」キャンペーン（H26～）
  - ◆販路拡大の促進
    - ・新技術研究開発支援（産学官連携や異業種交流による製品開発などへの支援）
    - ・食品加工産業支援（特産品のブランド化、高付加価値化の推進）
    - ・中小企業等支援（各種研修会の開催、経営指導、フォローアップ事業など）
    - ・ビジネスマッチング支援（国内外展示会などへの出展支援）
    - ・インターネットショップ「とっとり市」の運営
  - ◆広域的・国際的な観光連携と経済交流の推進
    - ・環日本海諸国との経済交流推進（H23.8 ウラジオストック直行チャーター便就航）
    - ・ファムツアーの実施、観光サインの整備

- ・国際交流員の配置による円滑な国際交流と地域への派遣による市民の国際理解の推進

6 中山間地域の暮らしを支えるプロジェクト（農林水産物産地化、交通、多極コンパクト、人材育成、担い手、むらとまち交流、グリーンツーリズム、移住）

◆地場産業の活性化と雇用の確保

- ・「ふるさと宅配便」による農林水産物の PR と販売拡大
- ・地域の特産品の開発、生産、販売促進、販路拡大支援
- ・関西圏でのマルシェ実施などによる販路開拓支援

◆安全・安心な暮らしの確保

- ・「南部地域新総合公共交通実証効果調査」実施（H24.10）（再掲）
- ・福祉有償運送事業者、過疎地有償運送事業者への支援
- ・日常生活を支える地域生活拠点再生（多極型のコンパクトな都市づくり）

◆魅力ある地域づくり・人づくりの推進

- ・新規就農者支援
- ・農業の担い手への農地の効率的集積
- ・漁業担い手育成
- ・中山間地域リーダーの養成（再掲）

◆交流による活性化と移住定住の推進

- ・里山交流（中山間地域の住民と都市部の住民の交流活動支援）
- ・グリーンツーリズムの促進
- ・UJI ターン促進（再掲）

○ 9次総前後の主な指標の比較

指標	H22 年度	H27 年度	増減（H27-H22）
人口（国調）	197,449 人	193,766 人	△3,683 人
世帯数（国調）	73,288 世帯	75,384 世帯	2,096 世帯
鳥取管内有効求人倍率（年度末）	0.65	1.16	0.51
観光入込客数（鳥取いなば温泉郷）	2,703 千人	3,010 千人	307 千人
移住者数（単年度）	73 世帯、166 人	178 世帯、326 人	105 世帯、160 人

（H27 国調は速報値）

## 【9次総総括】

9次総の基本計画期間（H23年度～H27年度）の本市を取り巻く社会経済情勢は、人口減少や少子高齢化の進展、長引く景気の低迷による雇用情勢の悪化、地球規模での環境問題の深刻化、情報通信技術の発展、地域主権改革の推進など、政治・経済・社会・教育・文化・環境などあらゆる分野で大きな変革期でありました。本市においても、旧鳥取三洋電機など電機産業の再編などにより、事業所の閉鎖、縮小、雇用変動など地域経済に様々な影響がありました。このような中、平成25年3月の鳥取自動車道全線開通や平成26年9月の山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟再認定などは、本市の持続的な発展につながっていくものであります。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災により、地域防災体制の一層の強化の必要性和重要性を再認識させられ、災害時に中枢を担い真に機能する防災拠点としての新庁舎整備の取組みが前進するなど、市民の安全・安心な暮らしの確保に向けた取組みを進めてまいりました。

このように様々な課題の克服のため実施した施策の達成状況は、別紙（資料3-1、資料3-2）のとおりですが、人口等の指標を見ると、人口減少は進んでいるものの、地方創生の取組み、移住定住の促進や雇用対策、観光分野などの広域連携等により、有効求人倍率の改善や、移住定住者の増、観光客等交流人口の拡大、さらには市債残高の計画的な縮減等により将来の財政負担の軽減を図り健全財政を堅持するなど9次総で取り組んできた施策目標は概ね達成されたものと考えます。

次期第10次総合計画においても、引き続き9次総の「人を大切にすまち」を継承し、地方創生の流れを止めず、平成27年9月に策定した「鳥取市創生総合戦略」を重点施策に位置付け、平成30年4月の中核市移行を見据え、着実に掲げた施策を実施していくものであります。